

子育てにかかわる価値観の変容を促す保育士による母親支援  
—Z 保育所の保育士と子育て課題を持つ母親へのインタビュー調査から—

○ 植草学園大学 小川 晶 (008049)

キーワード：保育士・母親支援・子育て課題

## 1. 研究目的

### (1) 目的

本研究の目的は、母親の子育てにかかわる価値観の変容を促すために保育士は、母親をどう捉えてどう支援しているのか、その関係構築のプロセスを含めて、保育士の母親支援プロセスを明らかにすることである。

### (2) 意義

本研究では、保育士と母親とに個別にインタビューを行いマッチングさせて分析するという方法をとった。支援の主体と客体との両側面からの内面的な様相を質的に明らかにすることで、利用者主体の支援を検討する指標として有効であると考ええる。

## 2. 研究の視点および方法

### (1) 視点

本研究では子育て課題を、通常の保育の中では支援しきれないような困難性の高いものに限定する。それは、子どもを通して担任保育士が行う母親支援で改善するような子育て課題や、母親との直接的なコミュニケーションで予防的に防げる程度の子育て課題などの程度を超えた、複数の職員や機関がかかわることが必要であり、より親密で継続的なかわりが必要である子育て課題である。

また、本研究で調査したのは保育所や保育士に対して信頼感が強く、保育士の支援を肯定的に捉えている母親である。困難性が高い支援にもかかわらず良好な信頼関係を構築している支援関係を分析することで、有効な支援の方法への示唆が得られると考ええる。さらにインタビューイの母親は全員が、保育士の支援によって子どもや子育てに関する考え方が変わったことを語っており、これを子育てにかかわる価値観の変容と位置付けた。

### (2) 方法

Z 保育所の保育士と子育て課題を持つ母親に対して、個別に半構造化インタビューを実施した。Z 保育所は、子育て支援ネットワークの一機能として在籍親子への支援を捉えており、保育所内でも担任保育士、主任保育士、所長保育士が連携して親子支援をおこなっている。インタビュー調査についての詳細は別紙（当日配布資料※回収資料）の通りである。分析は KJ 法を参考におこなった。分析の手順については別紙の通りである。

### 3. 倫理的配慮

調査協力者へは確実に説明を行い文書での同意を得た後に協力者への心身の影響に配慮してインタビューを実施した。また、情報は十分に注意して扱い、匿名化のもと分析をすすめた。なお、本研究実施に際しては東洋大学倫理規定にのっとり必要な手続きを行い、東洋大学倫理委員会の審査のもと承認を得た。

### 4. 研究結果

#### (1) 保育士が支援する母親の側面

保育士は、母親の以下の側面にかかわり、支援していることが分かった。また、その支援は、担任保育士と園長や主任保育士が分担しておこなっていることが分かった。

- ①原家族との関係について ②夫などのパートナーについて : 主に園長や主任
- ③仕事について ④きょうだいなどを含めた子どもと子育てのことについて
- ⑤保育士や職員、他の母親などとの関係について : 主に担任保育士

#### (2) 母親が抱く信頼感の差異

母親は担任保育士と園長（または主任保育士）に対して信頼感を抱いているが、この両者では抱いている信頼感に差異があることが分かった。

- ・園長、主任への信頼の語り：「お母さんみたい」「見捨てられない」「特別よくしてくれている」「見ていてくれる」「私を認めてくれる」
- ・担任保育士への信頼の語り：「友だちみたい」「気楽さ」「きめ細やかに子どもを見てくれる」「子どもは先生が大好き」

### 5. 考察

母親が抱く保育所や支援への肯定感は、担任保育士への信頼と園長や主任への信頼の両方が高いことで得られていることが分かった。母親のより私的な側面には担任保育士よりも園長や主任が支援し、保育所の母親としての社会的な関係が保たれる範囲では担任保育士が支援していることも分かった。園長や主任に対しては、語りにあるように、母親自身をまるごと認めてくれている、まるで母に抱くような信頼感を抱いており、担任保育士に対しては、一緒に子育てしてくれる友や同士のような信頼感を抱いている。担任保育士との信頼関係だけでは子どもを通しての母親の部分的な信頼は得られても、価値観が変容するような深い支援関係にはならず、やはり子育てしている側面以外の母親も受けとめ認めてくれる母のような安心感が得られる関係性こそが、母親の価値観の変容を支えられるのではないかと考える。子育て課題を持つ母親にとっては、子どもや子育てしている側面以外の側面も受けとめられることで、全体としての自分が受けとめられ感や、認められた感が得られ、それが支えとなって子育てしている自分への内省が導かれ、価値観の変容を促しているのではないかと考える。